【古典文法　助動詞「る・れ」識別①】

問．次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

① さしも心に入らぬ女のもとにても、泣かれぬ音を、そら泣きをし、（平中物語）

② かきつばたといふ五文字を句の上に据ゑて、旅の心を詠め。」と言ひければ、詠める。（伊勢物語）

③ 多くの者ども討たれにけり。新中納言、使者を立てて、（平家物語）

④ 道知れる人もなくて、惑ひ行きけり。三河の国八橋といふ所に至りぬ。（伊勢物語）

⑤ 入道殿、「かの大納言、いづれの舟にか乗らるべき。」とのたまはすれば、（大鏡）

⑥ 玉を請ひ取りてのち、にはかに怒れる色をなして、柱をにらみて、（十訓抄）

⑦ 蓬の、車に押しひしがれたりけるが、輪の回りたるに、近ううちかかりたるもをかし。（枕草子）

⑧ はじめより我はと思ひ上がり給へる御方々、めざましきものにおとしめ 嫉み給ふ。（源氏物語）

⑨ こはいかに、かくては立ち給へるぞ。あさましきことかな。（宇治拾遺物語）

⑩ 風に堪へず、吹き切られたる炎、飛ぶがごとくして、一、二町を越えつつ移りゆく。（方丈記）

⑪ 蜘の古巣をはらひて、やゝ年も暮れ、春立てる霞の空に、白川の関越えんと、（奥の細道）

⑫ 「障ることありてまからで。」 なども書けるは、「花を見て。」と言へるに（徒然草）

⑬ 恋しからむことの堪へがたく、湯水飲まれず、同じ心に嘆かしがりけり。（竹取物語）

⑭ さだめてならひあることにはべらむ。ちと承らばや。」と言はれければ、（徒然草）

⑮ 京に歌合ありけるに、小式部内侍、歌よみにとられて、よみけるを、（十訓抄）

①	⑥	⑪
②	⑦	⑫
③	⑧	⑬
④	⑨	⑭
⑤	⑩	⑮

【古典文法　助動詞「る・れ」識別①】　解答

問．次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

① さしも心に入らぬ女のもとにても、泣かれぬ音を、そら泣きをし、（平中物語）

② かきつばたといふ五文字を句の上に据ゑて、旅の心を詠め。」と言ひければ、詠める。（伊勢物語）

③ 多くの者ども討たれにけり。新中納言、使者を立てて、（平家物語）

④ 道知れる人もなくて、惑ひ行きけり。三河の国八橋といふ所に至りぬ。（伊勢物語）

⑤ 入道殿、「かの大納言、いづれの舟にか乗らるべき。」とのたまはすれば、（大鏡）

⑥ 玉を請ひ取りてのち、にはかに怒れる色をなして、柱をにらみて、（十訓抄）

⑦ 蓬の、車に押しひしがれたりけるが、輪の回りたるに、近ううちかかりたるもをかし。（枕草子）

⑧ はじめより我はと思ひ上がり給へる御方々、めざましきものにおとしめ　嫉み給ふ。（源氏物語）

⑨ こはいかに、かくては立ち給へるぞ。あさましきことかな。（宇治拾遺物語）

⑩ 風に堪へず、吹き切られたる炎、飛ぶがごとくして、一、二町を越えつつ移りゆく。（方丈記）

⑪ 蜘の古巣をはらひて、やゝ年も暮れ、春立てる霞の空に、白川の関越えんと、（奥の細道）

⑫ 「障ることありてまからで。」　なども書けるは、「花を見て。」と言へるに（徒然草）

⑬ 恋しからむことの堪へがたく、湯水飲まれず、同じ心に嘆かしがりけり。（竹取物語）

⑭ さだめてならひあることにはべらむ。ちと承らばや。」と言はれければ、（徒然草）

⑮ 京に歌合ありけるに、小式部内侍、歌よみにとられて、よみけるを、（十訓抄）

① 自発	② 完了	③ 受身
④ 存続	⑤ 尊敬	⑥ 完了
⑦ 受身	⑧ 存続	⑨ 存続
⑩ 受身	⑪ 完了	⑫ 存続
⑬ 可能	⑭ 尊敬	⑮ 受身